

ウッジョブ!

# WOOD JOB!

かむ さり  
～ 神 去 な あ な あ 日 常 ～

## 撮影現場

## 取材記

林業を題材とした三浦しをんさんの小説「神去なあなあ日常」(※)が、先般、映画化されると発表されました。2014年公開予定のこの”青春林業エンタテインメント”映画、『WOOD JOB! (ウッジョブ)～神去なあなあ日常～』の地方ロケが先月末まで行われていましたので、その撮影現場にお邪魔しました。

©2014 「WOOD JOB! (ウッジョブ)～神去なあなあ日常～」製作委員会



映画「WOOD JOB!ウッジョブ」監督の矢口史靖さん



## 「WOOD JOB！（ウッジョブ） ～神去なあなあ日常～」

### ストーリー

C調で毎日楽しくお気楽に過ごしていた平野勇氣(18)は、大学受験に失敗、彼女にもフラれ、散々な状態で高校の卒業式を迎える。そして偶然目にしたパンフレットの表紙でほほ笑む美女にまんまとつられ、1年間の林業の研修プログラムに参加することに。

電車を乗り継ぎ降り立ったのは、当然ケータイも圏外の山の中。

虫だらけの山、もはや人間とは思えないほどワイルドで怖い指導員達、命がいくつあっても足りない大変な林業という仕事…に耐えきれず逃げ出そうとするも、例の表紙の美女が、勇氣が研修を終えて1年間所属することになる神去村の中村林業にいと知り、留まることを決意する。

そしていざ、中村林業での研修が始まる!!!が、どこにも美女の姿は見当たらない!それどころか、一番恐れていたもっとも野生的な指導員・飯田与喜の家に1年間居候することに!脱走する気力さえなくしかけた勇氣は、例の美女が、中村林業の親方の奥さんの妹であり、近くの小学校で先生をしている石井直紀だと知ることが……。

果たして、直紀との恋の行方は?与喜のもとで1年間無事に過ごし遂せるのか!?

今、誰も見たことの無い、笑いと感動の青春林業エンタテインメントの幕が上がる!!

### 監督・脚本

矢口史靖

### 原作

「神去なあなあ日常」三浦しをん著(徳間書店刊)

### キャスト

染谷将太 長澤まさみ 伊藤英明ほか

### 公式サイト、ツイッター

<http://woodjob.jp>、WOODJOB\_MOVIE

舞台が山村ということ、実際の撮影も三重県松阪市の最寄りの駅からクルマで揺られること約2時間の山中で行われていました。

「緑の雇用事業」(\*)をモチーフとした制度により、山村で1年間の林業研修プログラムに参加する主人公・平野勇氣を演じるのは、ベネチア映画祭で新人賞を受賞された染谷将太さん。

取材当日の撮影は、主演の染谷さんを中心にふんどし姿の男達が活躍する、映画の重要な場面である村祭りのシーン。村祭りに使用されるという、人の背丈を軽く越える太さの巨木のセツトが準備されていました。

この日は、TBSテレビ、毎日放送、RKB毎日放送、北海道放送、静

岡放送各局を代表する男性アナウンサーの皆さんがふんどし姿でエキストラ出演されていましたので、撮影の合間に、アナウンサーの皆様は日本の森林・林業の現状について、お話しさせていただきました。皆様、熱心に耳を傾けていただき、「今、日本の森林の蓄積(樹木の幹の体積)は増加し続けており、木材を積極的に有効利用すべき時期である」ことについて、特に強い関心を持たれ、「木を伐らないことが森林を守るのではなく、木を伐って使うところが森林を守ることになるのですね」とのコメントを頂きました。

本作は、「ウォーターボーイズ」、「スウィングガールズ」など数々のヒット作を世に送り出し、日本で最も注目を集める映画監督の一人である矢口史靖さんが監督・脚本を手がけておられます。矢口監督は、映画撮影開始前に長い時間をかけて、詳細に森林・林業の取材をされたとのこと、お話を伺ったところ、「林業はとても興味深く、大切な産業なんだなと感じました。」とおっしゃっていました。

主演の染谷さんも実際に林業の現場で木の伐倒などの修行を積んだ上で撮影に臨まれており、「森林・林業の活性化の起爆剤となって下さい」とお願いしたところ、力強く頷いていただきました。

取材当日は天気も良く、撮影は順調に進んでいましたが、プロデューサーの方にお話を伺ったところ、山中ゆえに雨も多く、撮影が中止になることもしばしばあり、また、蚊やダニといった害虫対策も必要で、とても大変な現場だそうです。それでも本物の現場での撮影にこだわり、「今までにスクリーンで観たことのない臨場感あふれる森林の映像」となっているそうで、とても楽しみです。

原作のタイトルで映画のサブタイトルにも入っている「なあなあ」という言葉。「ゆつくりのんびり行こう」、「まあ落ち着け」という意味。遠く未来を見据えなければならぬ林業の世界にぴったりです。

この映画を通じて、一人でも多くの方が森林・林業の世界を面白い、楽しいと感じ、森林・林業の応援団となっただけのことを願います。